

[主催] 河北新報社、東京エレクトロン

[協力] 東北大大学、東北大大学「社の都女性研究者ハーデリング支援事業」  
[後援] 仙台市教育委員会、大和町教育委員会

楽しい理科のはなし2010～不思議の箱をあけよう～

サイエンス・エンジニア 理科実験教室

# 感動！かがくのふしぎ体験

実施日 2010年8月28日

会場 東京エレクトロンホール宮城 6階 会議室

活動実施者

【地球・動物～機械まで“科学”的魅力を大展示】

- 班長 鈴木杏奈
- サポート 近藤由佳、八重樫あゆみ、千田はるか、堀尾真理

【化学の宝石】

- 班長 浅野成美
- サポート 羽藤愛、久保有美子、中島瑠美、塩飽由香利

【色が変わる！電気の力で絵をかこう】

- 班長 原弥生
- サポート 浅野晴香、岩崎藍子、八重樫咲子

【ジュースの中身を調べてみよう】

- 班長 大場歩
- サポート 沼尾恵利子、野澤佳菜子、高橋さやか、八木橋奈央

## 活動概要

昨年度に引き続き広報課の依頼により河北新報社主催イベントにSAが参加する形となった。大ホールでは実験ショーが2回行われ、4階は東京エレクトロンによる実験教室、5階は東北大大学の4つの研究室が実験イベントを行い、6階ではSAによる実験教室が行われた。6階会場では会議室(定員200名、299m<sup>2</sup>)を4つのテーマに分け、班長と班員によってSAを構成した。来場者は、小学校低学年以下の参加者が多く、親子連れが目立ち、イベント全体で約1400名、SAの理科実験教室には昨年度の2倍の約600名が訪れた。

## 参加したSAの感想

- 今回のイベントでは形状記憶合金とはどのようなものかをおもちゃを用いて説明させていただきました。見に来てくださった方々が多いときも、無駄な待ち時間を作らせないよう異なる展示品について説明するなど臨機応変に対応することができたと思います。科学に興味のあるお子さん・親御さんがたくさんいらっしゃって、積極的に質問をしてくれてとてもうれしかったです。自分のなかで成長できた部分としては以前よりも、相手に合わせて説明の仕方を変えることができるようになったと思います。
- 班長を任せ、企画を動かすことに加えて、どのように班員を引っ張っていくべきかも考えさせられました。当日は想像していた以上に来場者が多く、イベント開始直後はどう動いたらいいかわからず焦ってしまいましたが、班員のみなさんに助けられて無事に終了することができました。またカウンティングチューブの口が小さく、途中で実験方法を変えるなど臨機応変に動くことができたのもよかったです。
- 今回は2年目なのでコアとして参加しました。昨年の経験を活かした実験・展示を企画した結果、スムーズな運営を行うことができました。また、親子で楽しめるイベントになったと思います。今回の経験を通して、低学年の子供たちには、見て、触って、動かして感じる科学の面白さを伝えることが重要であることを再認識しました。
- 準備はとても大変でしたが、班の皆さんと協力して準備をすませ、当日のイベント



展示ポスターの一例



発表資料の一例

## 「感動！かがくのふしぎ体験」アンケート

● このイベントはいかがでしたか?

おもしろかった! ... 235人

よくわかった ..... 30人

むずかしかった ..... 10人

## 参加者約600人

● 小学生の感想

+どーのちがいで、同じ色素を使っているのにえんぴつで書いた色がちがったことがおもしろかったです。／オーロラがとてもきれいでいました。／理科が好きになりました!!／アルギン酸やカルシウムで宝石が作れるのがわかった。／人工いくらを作つて本物みたいでびっくりしました。また参加したいです。

● どちらから来ましたか?

仙台市内 ... 67%

宮城県内 ..... 30%

● また参加したいですか?

参加したい! ... 90%

内容によって参加したい ..... 8%

● 父兄の感想

子どもたちが普段触ることのないスポットやビーカーをさわるというのと、とても素晴らしい経験になったと思います。／家庭ではなかなかできない実験を体験でき、とても良いイベントに参加できたと子どもも喜んでいます。毎年企画して頂ければと思います。／子どもがとても楽しそうでした。大人も分かりやすかったです。